

令和6年度 自己評価表

愛媛県立松山東高等学校 No.1

学校番号(20)

教育方針		1 高い知性と豊かな創造性を身に付け、新しい文化の発展に貢献する人間を育成する。 2 高い道義心と公正な判断力を身に付け、人類の福祉増進に寄与する人間を育成する。 3 たくましい気力・体力を身に付け、平和な国家社会の実現に努力する人間を育成する。	重点目標	生徒の可能性を広げ、豊かな人間性を育む教育の実践 ー徹底した個人指導から、さらなる高みへー ＜卒業までに育てる力＞ 1 自己を鍛え、幅広い教養と学び続ける姿勢を身に付けて、課題解決に取り組むことのできる力 2 自他の多様性を理解し、対話と協働によって互いに高め合うことのできる豊かな人間性 3 世界的視野を持ち、持続可能な社会のリーダーとして新たな創造を切り拓くことのできる力 4 各々の目標を実現するに足る、高く、広く、豊かな学力	
領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学校経営	教育目標達成のための実践	個人面接強調週間も活用し、担任による個人面接を1、2年生一人年間10回以上、3年生一人年間15回以上を目指す。また、保護者アンケートの教育課程や授業に関する評価8.0以上を目指す。 1、2年 A:10回以上 B:9回 C:8回 D:7回 E:6回以下 3年 A:15回以上 B:14～13回 C:12～11回 D:10～9回 E:8回以下 保護者アンケート A:8.0以上 B:7.9～7.5 C:7.4～7.0 D:6.9～6.5 E:6.4以下	面接回数 1.2年 C 3年 D 教育課程 A	1、2年生は7.9回、3年生は10.2回であり、どの生徒に対しても、平均して約1.5か月ごとに個人面接を実施することができたが、目標には及ばなかった。 一方、保護者アンケートの教育課程や授業に関する評価は、平均 8.3 であり、生徒の実態や進路希望に応じた類型や選択科目が設定され、目標に応じたレベルの授業がなされていることが分かる。教職員対象の自己評価では、「定期的な面接だけでなく、教科の質問や進路相談等、生徒の要望に応え、個別指導や悩みの相談に快く応じている」が9.0と、担任だけでなく多くの教員が生徒にかかわる雰囲気ができている。	個人面接強調週間を活用した担任を中心とした面接に加え、教科の質問や進路相談、悩み相談など、多くの教員が生徒に関わり支えている体制を今後も強化することにより、生徒の可能性を広げ伸ばす教育の推進を図る。
	働き方改革に対する教職員の意識改善	目標チャレンジ制度を活用し、働き方についての意識改革を進め、ワークライフバランスの充実を図る。自己評価の平均値3.3以上を目指す。 A:3.5以上 B:3.3～3.4 C:3.1～3.3 D:2.9～3.0 E:2.8以下	B	全教職員がそれぞれ立てた成果目標に対する上半期の自己評価は3.3であった。教職員が自身の業務に対して自信と充実感を持っていると考える。	具体的な目標設定、フィードバックの活用、継続的なスキルアップ、チームワークの強化を通じて、全教職員の働きがいの向上を目指すとともに、生徒の成長を支援する環境の整備を図る。
	円滑な組織運営	業務の精選と情報共有を進め、円滑な組織運営を図り、自己評価の平均値8.5以上を目指す。 A:8.5以上 B:8.4～8.3 C:8.2～8.1 D:8.0～7.9 E:7.8以下	A	教職員対象のアンケートにおける「校務分掌において、他と連携協調して自分の役割を果たしている」は8.8ポイントで、前年同様、高いポイントで目標を達成できている。	業務の効率化を継続して行うとともに、各課、科、学年の協力体制を強化するとともに、教職員の自主的な連携・協力の取組も進めていく。
	施設設備の安全管理の徹底	施設設備の安全点検を定期的に行い、保護者アンケートの当該項目に関する評価7.5以上を目指す。 A:7.5以上 B:7.4～7.2 C:7.1～6.9 D:6.8～6.6 E:6.5以下	B	施設設備の安全点検を定期的に実施し、危険度の高い箇所から予算の範囲内で可能な対応を迅速に行った。保護者アンケートにおける評価は全学年では7.3であるが、2、3年生はいずれも6.8であった。	建築後相当年数を経過し、劣化が進んでいる建物が多い。定期的な安全点検に加え、日常的な点検を増やすことで事故等の未然防止に努め、計画的及び効率的な安全対策に取り組む。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

令和6年度 自己評価表

愛媛県立松山東高等学校 No.2
学校番号(20)

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
学習指導	授業外学習の充実	1、2年生は180分以上、3年生は330分以上の授業外学習習慣を形成し、主体的に学ぶ力を身に付ける。 1、2年生 A:180分以上 B:160分以上～180分未満 C:140分以上～160分未満 D:120分以上～140分未満 E:120分未満 3年生 A:330分以上 B:310分以上～330分未満 C:290分以上～270分未満 D:270分以上～290分未満 E:270分未満	A	3回の考查発表中の調査と夏季休業中の調査における授業外学習時間は以下のとおりである。 6月考查発表中・10月考查発表中・(夏季休業中)・2月考查発表中(1、2年生のみ)の順に、1年生は339分・265分・(200分)・330分、2年生は267分・241分・(190分)・325分、3年生は347分・368分・(419分)であった。3年生は学校行事と受験を並行して全力で取り組んでいる。	考查発表中の学習時間は確保できている。しかし、2年生が1年生よりも学習時間が少ないので、その分析や、中だるみをしている生徒に対しては注意をする必要がある。また、夏季休業中等の長期休業中の学習においても、高い意識を持って取り組めるように指導をしていきたい。
	教科指導の充実	授業公開週間や各教科の研究授業、教科会や各種の研修会等の機会を活用し、お互いの取組を共有し、各教員の授業力向上を目指す。	A	7月及び11月の授業参観週間や、授業公開日、研究授業等の機会を活用して、お互いに授業を参観し刺激し合うことによって、授業の改善点が見つかり、授業力の向上につながった。	引き続き、授業公開日に合わせての相互授業参観週間等の機会を積極的に活用するとともに、学習指導要領に対応した教材研究と、ICTを活用した工夫のある授業方法の研究を、教科会以外においても連携を図ってできるようにしたい。
生徒指導	交通安全指導の充実	学校と保護者・地域の方々との連携を深め、安全な通学への啓発活動を積極的に推進していくとともに、交通ルールの遵守とマナーアップの向上を図る。特に「自分の身は自分で守る」の教訓を生かし、年間の交通事故の件数を15件以下にするよう指導する。	C	教職員と保護者が協力して年間延べ16回の街頭指導を行い、交通安全意識の高揚を図ることができた。また、ヘルメット着用の大切さを伝えるため「命の授業」を実施した。年間の交通事故は17件であった。	毎月の自転車マナーアップ運動やPTAと共同の街頭交通指導を継続するとともに、SHRやホームルーム活動、集会等を利用して生徒の交通安全や交通マナーの意識高揚につながる活動を継続的に行う。
	基本的生活習慣の確立	集団生活に必要な規範意識の向上を図り、自律する能力を培い、基本的生活習慣をより一層自分に合ったものにしてできるよう指導していく。余裕のある行動を心掛け、10分前行動の徹底を図ることを通して、1か年の皆勤率60%以上を目指す。 A:60%以上 B:59%～55% C:54%～50% D:49%～45% E:45%未満	E	毎朝の正門での登校指導や生活自律週間での指導により、時間に余裕を持った登校ができるようになった。2月末現在で皆勤率が全校で27%である。	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上について、教職員間での意識統一を図り、授業や諸活動を通じて、粘り強い指導を行う。
進路指導	進学指導の充実	東大、京大等の国立難関大学、国公立大学医学部医学科の合格者数80名以上を目指す。 A:80名以上 B:79～70名 C:69～60名 D:59～50名 E:49名以下 (現役生の合格者数では、国立難関10大学50名以上、国公立大学医学部医学科10名以上を目指す)	C	東大の合格者数は5名、京大の合格者数は9名であり、国立難関大学と国公立医学部医学科の合格者は、それぞれ65名と23名である。難関大合格者は88名である。また、現役生の合格者数は国立難関10大学50名、国公立医学部医学科14名である。一人一人がしっかりと高い目標をもって、第一希望に出願した結果であると考ええる。	二次力向上に向けて、基礎基本の定着を図り、早期に国数英の学力の向上に努める。そのために、1・2学年における弱点教科の学力向上を行う。教科や学年など教員の組織力を高め、常に二次の学力強化を意識して指導する。生徒には「受験は団体戦」という意識を持たせ、高い目標を持った集団として学力の向上を図る。 1年次から、松山東高生であることを自覚させ、基本的生活習慣をしっかり確立させるとともに、逆境にも負けない強い精神力を育成する。さらに、状況に応じて、個に応じたきめ細やかな指導や面談を行い、目標を高く持たせて、その目標を必ず実現するという強い意志、絶対にあきらめないという気持ちの育成と学習する意欲や態度を醸成させる。
		早稲田、慶応、上智、関関同立等、私立難関大学延べ合格者数250名以上を目指す。 A:250名以上 B:249～230名 C:229～210名 D:209～190名 E:189名以下	C	早稲田大15名、慶応大5名、上智大2名、明治大12名、青山学院大1名、中央大2名、同志社大58名、立命館大84名、関西大19名、関西学院大39名である。新課程入試初年度であり、様々な影響が考えられたが、高い目標と広い視野をもって受験に臨み、一人一人の努力の成果が出た結果と考える。	私立難関大合格者は、国立難関大志望者でもある。目標の難関国公立大の合格に向けて、共通テスト対策では各教科ともバランスのよい学習をさせること、二次試験対策においては国数英の各教科において、論理的思考力を身に付けさせるなど、最後まで目標を高く持って、受験教科を早くから絞らせないようにする。
		国公立大学合格者数250名以上を目指す。 A:250名以上 B:249～230名 C:229名～210名 D:209名～190以上 E:189以下	C	国公立大学の出願数は、前期381名、中後期316名である。共通テストの平均点上昇に伴い、一人一人がしっかりと目標を持って、第一希望に出願していると考ええる。前期試験合格発表時点で、国公立大合格者数は183名である。現役生は、難関大学をはじめとして、第一希望を譲らないという気持ちでよく健闘した。最終結果が出るまでの健闘を期待する。	入試は団体戦であるので、学校の進路指導方針を徹底し、教員の意識統一の下、粘り強い指導を継続していきたい。生徒に松山東高生であることを自覚させ、東京大や京都大など難関大学への進路希望を持たせて生活をさせ、難関大学や医学部医学科の受験者数・合格者数を伸ばしたい。また、生活と学習の両面での基礎・基本の定着に向けて指導を徹底し、岡山大・広島大等の中堅大学の受験者数・合格者数も増やしたい。「二次力で勝負、二次で逆転」という気持ちを持たせることのできる教科指導・進路指導をしていきたい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

令和6年度 自己評価表

愛媛県立松山東高等学校 No.3

学校番号(20)

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
特別活動	ホームルーム活動の充実	消費者教育など新しい内容を研究し、更に発展した活動が展開されるよう担任を援助するとともに、生徒の自発的・自治的活動を助長し、より良い人間関係を形成できるホームルーム活動を確立する。	A	消費者教育や主権者教育だけでなく、講師を招聘して講演会を行い、将来に向け効果的な活動を行うことができた。また、ホームルーム活動では、生徒たちが自らテーマを立ち上げ、主体的、対話的な活動を積極的に行い、生徒たち一人一人が積極的に取り組むことができた。	生徒の主体的・対話的な活動と講演会等をバランスをとって、充実したホームルーム活動にする。また、生徒が一人一人が役割分担をして、司会や記録係など積極的に行えるようにしたい。
	生徒会活動の充実	生徒会執行部の役割を明確にし、更に自主的な活動ができるよう、生徒会役員との連携を更に深める。また、生徒会委員会の活動をより活性化し、生徒主体の活動が展開できるように支援していく。	A	多くの学校行事を生徒会執行部を中心に企画・立案を行い、計画的に準備することでスムーズな運営を行うことができた。	生徒会執行部と特活課教員との連携をより密に行い、生徒がより充実した活動が行えるようにする。
	学校行事の充実	学校行事の特性やねらいを明確にし、東高ならではの伝統的な校風を継承・発展させていく。また、集団の中でリーダーシップやフォロワーシップを発揮せるとともに、マナーアップを図る。そのためにも、生徒が学習活動や部活動とのバランスをとりながら、積極的に取り組めるような支援を行っていく。	A	伝統的な校風を残しつつ、改善できるところは生徒会執行部と連携を密にしながら、生徒がより充実した活動ができるように創意工夫しながら運営することができた。	熱中症対策など生徒が健康で安心して活動できるような、安全対策を講じながら活動できるようにする。生徒間で親睦を深め、協力して主体的に行動できるようにする。
	部活動の充実	学習活動や学校行事とのバランスを考慮しながら顧問と生徒が一体となった「質の高い文武両道の実践」を目指すとともに、総合的な人間力の育成にも重点を置き、毎日の活動を充実させていく。 A: 全国大会出場10種目以上 B: 8種目以上 C: 6種目以上 D: 4種目以上 E: 2種目以上	A	運動部・文化部ともに限られた時間を効率よく活用することができている。全国大会にも数多くの部活動が出場・参加することができている。	運動部・文化部ともに限られた時間を効率よく活用することができている。全国大会にも数多くの部活動が出場・参加することができている。 運動部・文化部ともに多くの部が全国大会に出場することができた。来年度も多くの生徒が全国大会に出場できるよう指導していきたい。
保健・安全管理	健康教育の充実	生徒一人一人の健康状態を確実に把握し、健康の維持・増進を図るとともに、健康診断結果による事後措置の徹底を図り、心電図・尿検査受診率を上げる。A: 100% B: 95%以上 C: 90%以上 D: 85%以上 E: 85%未満	A	対象者全員が学校医による検診又は医療機関で受診できており、何らかの指導を受けることができた。	次年度も生徒一人一人の健康状態を確実に把握し、個に応じた健康の保持・増進を図るとともに、健康診断結果による事後措置の徹底を図っていきたい。
		生徒のニーズに応じた効果的な保健講話を企画し、生徒・保護者への事後アンケートで「役に立つ内容だった」「とても役に立つ内容だった」の項目が80%以上になることを目標とする。	A	事後アンケートで「役に立つ内容だった」「とても役に立つ内容だった」の項目が85%であり、生徒・保護者のニーズに応じた保健講話を企画することができた。	次年度もできるだけ生徒や保護者のニーズに合った保健講話を企画し、健康な生活を送るための参考としていただきたい。

※ 評価は5段階(A: 十分な成果があった B: かなりの成果があった C: 一応の成果があった D: あまり成果がなかった E: 成果がなかった)とする。

令和6年度 自己評価表

愛媛県立松山東高等学校 No.4

学校番号(20)

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方案
保健・安全管理	教育相談の充実	月1回の定例会を効果的に活用し、学年団等と連携して組織的に対応する。学校生活アンケートを各学期1回実施し、担任の面談・配慮を要する生徒への教育相談担当者の面談を確実に実施する。年2回の生徒個人面談強調週間を活用し、個人指導の充実を図る。「教育相談だより」を年間5回発行し、生徒が心身の状況を客観的に見つめ、相談をしやすい状況を作る。また、スクールライフアドバイザーからの情報発信を行う。	B	月1回の定例会を効果的に活用し、学年団等と連携して組織的に対応した。学校生活アンケートを各学期1回実施し、担任の面談・配慮を要する生徒への教育支援担当者の面談を確実に実施した。年2回の生徒個人面談強調週間を活用し、個人指導の充実を図った。「教育相談だより」を年間5回発行し、生徒が心身の状況を客観的に見つめ、相談をしやすい状況を作り、また、スクールライフアドバイザーからの情報発信を行った。	学校生活アンケートの結果を学年会で検討することによって、横の連携を更に密にする。校内での情報発信を行い、人権感覚豊かな学校づくりに寄与する。生徒の心を育て、豊かな人間性を涵養する。
		特別支援教育校内委員会を通じて校内支援体制を確立し、教育支援に関する共通理解を図り、年間1回以上職員会において報告を行う。「教育相談だより」を通じて多様性の尊重について啓発する。配慮を要する生徒について迅速に対応する。	B	特別支援教育校内委員会を通じて校内支援体制を確立し、教育支援に関する共通理解を図った。年間1回以上職員会において報告を行った。「教育相談だより」を通じて多様性の尊重について啓発した。配慮を要する生徒について組織的に支援した。	多様性を尊重した豊かな人権文化の創造に向け、生徒の意識の向上と豊かな人間性の涵養に努める。
	環境の整備と美化の推進	ゴミの分別を徹底し、ゴミの削減に努める。ゴミ袋の使用枚数を昨年度より10%減らすことを目標にする。	B	美化委員会の呼び掛けを通して、ゴミの分別やゴミ袋の削減において、かなりの成果が見られた。来年度も継続して取り組ませたい。	事業所ゴミの分別方法を分かりやすく説明したり、ゴミの減量と呼び掛けたりするポスターを制作し、クラス毎に掲示を行うことによって、生徒の意識を更に高めていきたい。
		掃除用具や備品を定期的に点検・整備し、整理整頓をすることで、効率の良い清掃活動に取り組めるようにする。	B	関係部署と連絡を密にして、清掃用具・備品の整備に努めた。整理整頓についても美化委員が定期的に呼び掛けや確認を行った。	清掃場所によっては、用具ロッカーが不足しており、改善していきたい。また、用具を大切に扱うことや、備品を無駄なく使用することを積極的に呼び掛けていきたい。
		環境美化に関する意識を高めることで、生徒自らが自主的に清掃活動に取り組もうとする学校を目指す。10分間全力清掃。	B	ほとんどの生徒は、10分間集中して、少ない人数でも協力しながら効率的に清掃に取り組むことができている。	清掃場所と人数のミスマッチをなくし、無理なく清掃に取り組めるよう配慮する。また、美化委員による呼び掛けを行い、学校全体で校内美化に対する意識を高めていきたい。
	危機管理の徹底	危機管理マニュアル・防災避難訓練の在り方を学期ごとに見直し、発災時を想定した地域との連携を図る。また、生徒課をはじめ各課とも連携し、安全な学習環境の構築と安全教育に努めて、災害・事件・事故発生時に迅速・的確に対応できるようにする。	B	学校安全委員会を通して危機管理マニュアルを見直した。また備蓄品の活用や入れ替え・補充、危険個所のリストアップと補修・補強、地域防災士との連携等を通して、学校安全の推進に取り組んだ。	危機管理マニュアルや防災避難訓練の在り方を定期的に見直し、教職員の間で知識や経験を共有する。また、防災士の資格取得を積極的に呼び掛ける。防災意識の高揚と安全な学校環境の構築に努め、災害時に迅速に対応できるようにする。
人権教育	人権問題学習の充実	「部落差別の解消の推進に関する法律」の趣旨と内容を生徒・教職員に周知徹底させ、人権便りを学期に1回発行する。	B	各学年、人権問題学習の中で「部落差別の解消の推進に関する法律」に触れることができた。人権便りも、予定通り、全生徒のTeamsに配信することができた。	ホームルーム活動の記録を読み返し、今後も学習教材を検討していきたい。生徒人権委員会の活動を見直し、生徒の学びが人権学習発表会や人権便りにつながるようサポートする。
	人権教育研修会の充実	新聞記事を中心に人権に関する資料作成に力を入れ、学期に1回教職員に配布する。また、学年会で校外研修の報告を行い、成果を共有する。	C	生徒人権委員会として毎月資料をまとめたが、教室掲示に変更した。学年会で校外研修の報告を実施し、共有することができた。	研修会の資料や指導案を回覧するなど、情報共有の方法を工夫するとともに、人権に関する研修の案内や研修資料の充実を図りたい。

※ 評価は5段階(A: 十分な成果があった B: かなりの成果があった C: 一応の成果があった D: あまり成果がなかった E: 成果がなかった)とする。

令和6年度 自己評価表

愛媛県立松山東高等学校 No.5

学校番号(20)

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
図書活動	読書指導の充実	「朝の読書」の目的を理解させ、読書に臨む意識を高める。図書委員による「読み聞かせ」を学期に1回行い、内容の充実を図る。読書会を活発にする。	A	「読み聞かせ」「読書会」は定着しており、図書委員の主体的で熱心な取組により生徒たちの興味関心を高めることができた。「朝の読書」に対する生徒への意識付けのため、各クラスに設置している「学級文庫」の図書を整理・更新し、活用されたことが確認できた。	「読み聞かせ」「読書会」「学級文庫」の生徒アンケート結果も踏まえて図書館蔵書の内容の見直しをし、より活発な活動を行っていく。
		啓発活動を継続して行い、一人一か月2冊以上の読書を奨励し、学校全体で年間20,000冊以上の読書を実践する。 A: 20,000冊以上 B: 19,999冊～18,000冊 C: 17,999冊～16,000冊 D: 15,999冊～14,000冊 E: 13,999冊以下	A	今年度も年間20,000冊を達成した。個々の読書状況をみると、ほとんど本を読んでいない生徒が大幅に減少しており、様々な媒体を通して、自分のペースで継続的に読書を行う習慣が定着していると考えられる。	年間20,000冊の目標は継続し、達成に向けて引き続き読書推進活動に努めていく。新着図書やオススメ図書などの案内の方法や掲示方法、呼び掛けの方法を工夫し、読書冊数のみでなく、読書内容の幅を広げるような啓蒙活動を検討していく。
	図書館活動の活性化	図書委員会活動を活発に行い、図書館内の展示・掲示を毎月更新する。毎月発行の「図書館だより」、年3回発行の「図書館報」の内容を充実させる。	A	「図書館だより」「図書館報」等を通じて、今まで知らなかった図書に触れる機会があり、生徒の読書活動が活性化した。また、更新した検索システムや、今年度に設置した「ブックポスト(図書返却ボックス)」は、図書館の利便性向上に役立っている。	「図書館だより」「図書館報」発行について、より充実した内容になるようにし、引き続き広報活動を努力していく。また、授業や人権教育、探究活動などと連携し、より図書館が活用されるような活動を検討していく。
現職教育	校外研修の充実	学校訪問や授業公開などの研修への参加を呼び掛け、積極的な参加を促す。また、参加報告会を実施することで、情報の共有を図る。	B	学校訪問や授業公開などの研修への参加の呼び掛けを、メッセージや電子掲示板も活用して行った。年度末(2月)に報告会を実施している。	校外研修の場所や人数について一定の制限があるのは仕方ないことであるが、教師力の向上のため積極的な研修への参加を呼び掛けていく。
	校内研修の充実	授業改善を図る機会として、授業相互参観週間を活用する。校内研究授業を年5回以上行い、広報に努める。 A: 5回以上 B: 4回 C: 3回 D: 2回 E: 1回以下	A	校内研究授業は、基礎研修を含め、本年度15回実施することができた。授業相互参観週間は年2回実施している。アンケートのコメントから、校内授業参観や授業相互参観週間を授業改善に役立てようとする意識が高まっていると感じている。	引き続き校内研究授業の機会を確保するとともに、授業相互参観週間の活用が学校全体として活発に行われるよう工夫していきたい。
PTA活動	PTA活動の充実	総務・文化・生活指導・保健厚生・進路指導の各委員会の理事を中心に意欲的に行われているPTA活動に、一般保護者が参加しやすい活動を模索(PTA総会参加率を20%以上)し、活動の活発化を図ることで、生徒にとってより良い教育環境を作ることを目指す。特に今年度は本来の東高PTA活動の特色を前面に押し出し活動の充実を図る。	A	各委員会とも年間を通して委員長・副委員長を中心に、意欲的に活動が行われた。PTA総会の参加率が20%以上あることから、一般保護者もPTA活動に高い理解を示している。PTA理事を中心に充実した活動が実施された。	今年度の活動は従来どおりの充実したものとなった。今後ともPTA役員研修や文化祭・運動会での催しを継続するとともに、活動内容の見直しを行う等、多くの一般保護者が参加しやすい、より良い教育活動を更に模索・展開していきたい。
		「明教通信」を年4回、「明教便り」を年12回発行、「ホームページ」を適宜更新することにより、保護者に必要な情報を伝えるとともに、本校保護者の本校教育への興味を喚起したい。	A	各媒体とも、定期的に予定どおり「明教通信」年4回、「明教便り」年12回の発行を達成でき、保護者に生徒の活動予定、活動状況を伝えることができている。	「明教通信」、「明教便り」作りは、軌道に乗り安定した発行が行えている。今後、本校の魅力をより伝えることができるよう更なる内容の充実を図りたいと考えている。

※ 評価は5段階(A: 十分な成果があった B: かなりの成果があった C: 一応の成果があった D: あまり成果がなかった E: 成果がなかった)とする。